

希少植物（絶滅危惧種）

オグラコウホネ（巨椋河骨）



北川湿原を代表する希少植物。「川坂川」とその支流「山の内谷川」に群生しています。スイレン科コウホネ属の多年草で、中部地方から九州にかけて分布する日本固有種。コウホネは、「河骨」又は「川骨」と書きます。地下茎が動物の骨に似ているところからきています。和名は京都府にあった巨椋池に由来。

花期5月～11月

宮崎県絶滅危惧ⅠB類

環境省絶滅危惧Ⅱ類

サイコクヒメコウホネ（西国姫河骨）



西日本の湖沼・ため池・河川・水路に群生する抽水植物。家田川のサイコクヒメコウホネは、上流から下流域まで1,000株以上群生し、その規模は日本一とも言われ、本種は、川坂川のオグラコウホネと並び北川湿原を代表する希少植物です。家田湿原のやまはな橋付近がオススメのスポットです。コウホネの花言葉は「秘められた愛情」。

花期5月～11月

サテクサ（叉手草、摩草）



家田・川坂ともに最も多く生育しているタテ科の植物。葉柄にするどいトゲがあるのが特徴。秋の果実期になると白色がピンクや赤に色づき、湿地を彩ります。宮崎県絶滅危惧ⅠA類

ナガバノウナギツカミ（長葉の鰻掴み）



秋の北川湿原を散策すれば間違いなくお目にかかれる希少植物。昔の人はザラザラした茎でウナギを掴んでいたのでしょうか？ 花期8月～10月 宮崎県絶滅危惧ⅠA類

マイツルテンナンショウ（舞鶴天南星）



球状の地下茎をもつサトイモ科の多年草、コンニャクなどの仲間です。和名は鶴が舞っている姿に見立てています。「天南星」は、中国で夜空に広がる星の意味。宮崎県絶滅危惧ⅠB類 環境省絶滅危惧Ⅱ類

ミストラノオ（水虎の尾）



西日本の水田や湿地帯に自生するシノ科の多年草。花の形を虎の尾にたとえています。他の植物に寄り添い、柔らかい茎を伸ばし生長します。花期8月～10月 宮崎県絶滅危惧ⅠA類、環境省絶滅危惧Ⅱ類